岩屋中だより

令和6年12月23日 NO29

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

福島県いわき市派遣事業に参加した本校生徒の感想の紹介 2

前回の続きです。いわき市派遣事業に参加した、2人目の本校生徒の感想の紹介です。仲間から学ぼう！

【質問6】いわき市派遣事業に参加して、学んだこと、感じたこと、気づいたことをできるだけ詳しく記入してください。

学んだこと…東日本大震災で生じた被害を様々な視点で知ること「ができました。2日目の請戸小学校を見学したとき、本当にいろいろな感情「がでてきました。「本当に現実なのか」、「卒業式の練習してたんだよね」「怖かったよね。」と生まれて初めての感情になって、目の前の海が突然恐しくなりました。あんなにキラキラ輝いているのに、全てを飲み込んで何もかも奪う存在になってしまうなんて、津波に対する考えが深まりました。そして5日間を通して、30人の仲間と一生の絆ができました!!人と人ってこんな短期間で仲良くなれて大事な存在になって1ヶ月経った今も「みんな早く会おう!」って画面上で会話して、出会えて本当に良かった!同じ目標を持つ仲間って世界一最強だって思います。全員、「いわき市に行って学びたい」「この思いがあったから、必死に文章に思いを乗せて応募したんだろうし たくさんの応募の中で選ばれた『30人』この30人はだれよりも熱い思いがあって選ばれた。私達に「最強」は本当によく似合う。学校もみんな違う。だけど思いは同じ。これが奇跡なのか運命なのか偶然なのかは分からないけど、出会わせてくれてありがとうございます。私と出会ってくれてありがとうございます。この言葉を仲間に伝えたいと思う5日間でした。

【質問7】いわき市派遣事業で訪れたところ、経験したことで一番印象的だったところ(こと)はどこ(何)だったですか。

印象的だったところ(こと) 請戸小学校

まず、私の目に入ったのは、「津波侵水深こまで」と書かれた青い看板。人、2~3人分ぐらいの高さがあって、ここまで海になってたんだ。と心が締めつけられました。その後、校内を見学したときにはがれた壁、まがった柱やパソコン オルガンなど、本当にここは学校で、小学生達が毎日授業を受けたり、遊んだりして いたんだよねと友達と話しました。昨日まで、当たり前のように過ごしていたのに、一瞬で津波にのみこまれ、中はぐちゃぐちゃになった。改めて 日々に感謝して生きていこうと思いましたそして敷地内のあらゆる 場所にあった絵の一つに「もう、もどれない。」と書かれていた絵がありました。もどりたくてももどれない。この事実を児童に教えなかった 先生方の判断力があってから、みんなパニックにならずに命が助かったんだろうなと思います。だからこそ避難訓練が大切だとわかりました。

【質問8】いわき市派遣事業を通して、あなたが一番身についたと思う力(資質)はどのような力(資質)ですか。

私がいわき市派遣事業を通して身についた方は、自分から行動する力です。今までの自分は、人に悪口を言われたことがトラウマで、自分から人前に立ちたくても、立てなかつたりして、本当の自分を出せずにいました。しかし、いわき市派遣のメンバーはみんな、自分 からパンパン前に出て発表したり、行動していて、「あ、動いていいのかみんなに負けたくない」と思いようやく殻を破ることができました。そのおかげで全員と話すこともできたり、市長さんの前で発表もできました!本当にメンバーになれて良かったです。自分の素顔を出して、自分から行動する楽しさに気づくことができた、いわき市派遣事業は一生の財産になり、生きていくうえで必要な力が身につきました。

【質問9】実践報告会ではどのような内容や形式を取り入れると、実りある発表になると思いますか。

私が実践報告会ですると良いと考えた内容は、スライドには点 だけをまとめ、自分たちは、小物を準備し、津波の高さを再現し想像してもらったり、津波や地震が来たときの正しい行動を劇で発表すると良いと考えました。私達が住む長崎は 地震が起こることも少なくどこか他人事になっていると思うので もし、地震が来たらどうすれば良いかわからない人も少なくないと思います。そのことを、私達が伝えることに大きな意味があり、使命です。東日本大震災を風化させないために、私達にしかできないことを見つけてきたのだから、私達らしい発表をしてみせる!